家計診断　こんなときどうする

定年後は夫婦で毎月旅行したい
金融資産4000万円、ローンは完済
完全リタイアしても大丈夫か

夫59歳、妻56歳。今年末に夫は定年退職になります。その時点での預金や株などの金融資産は退職金を含めて4千万円の見込み。夫は60歳で仕事をやめ、夫婦で月1回ぐらい1～2泊の旅行をし、年に1回は海外に行くような暮らしがしたいです。

東京都内の自宅マンションは60平方㍍でローンは完済。長男(29)は独立し、同居する長女(26)は将来、結婚資金や住宅費の援助が必要になるかもしれません。公的年金は夫60歳から毎月12万円、68歳から夫婦で22万5千円の見込み。妻は基礎年金のみで他に収入はありません。

夫の父は亡くなり、80歳の母が山形で一人暮らし。一人息子なので、いずれ呼び寄せて一緒に暮らそうと考えています。70代後半の妻の両親は千葉にいて、今のところ元気に暮らしています。

旅行減らせば持つが…　■ 自宅を売却する手も

して夫婦で旅行ざんまいという夢を実現できるか、キャッシュフロー（現金収支）を予測し、金融資産の残高の推移を試算したのが、グラフです。

リタイア後の10年間は月1回の国内旅行と年1回の海外旅行をすることで、余暇費などの支出が年間148万円（国内旅行1回8万円×11回＋海外旅行60万円）生じると想定しました。金融資産全体の平均運用利回りを4%確保しても、夫88歳、妻80歳の時点でお金が底をついてしまいます。

平均余命を考えると、妻はおそらくあと10年前後は人生を楽しむでしょうから、心おきなく旅行さんまいとはいかないでしょう。しかもこの試算では、夫が70歳以降は体力的に毎年、海外に行くのが難しくなることを勘案して、余暇費を80%に減額しています。ますますリタイア後の生活設計を再考する必要がありそうです。

一般論として解決する方法は、収入を増やすか、支出を減らすかのどちらかです。リタイア後に収入を増やすのはなかなか難しいので、国内旅行の回数を6回に減らして、余暇費を年108万円とすると、平均運用利回り4%なら夫84歳時点で1500万円程度の金融資産が残る勘定になります。これなら子どもへの資金援助や、長生きした場合にも対応できそうです。ただ、リタイア後のやりたいことを我慢しなければならないのは、夢がしぼむ思いです。

思い切った決断になりますが、数年以内に自宅マンションを売却するのも一つの手です。相談者は山形で一人暮らしをしている母をいずれ呼び寄せようと考えています。その場合、今の自宅では狭すぎるので、住み替える必要性があると思います。母は長年住みなれた土地を離れることを不安に感じるかもしれませんが、親を心配する息子が真剣に頼めば、よほどの事情がない限り応じるのではないでしょうか。夫に兄弟がいると、だれが親の面倒を見るか、親の遺産はだれが受け取るのかなど、もめることもあり得ますが、相談者は一人息子ということで問題はないでしょう。

東京の自宅の売却額は、控えめに見積もって、経費などを差し引いた後の手取りで1500万円程度になるとします。一方、母は山形の自宅を引き払って、自らの金融資産で賄える中古の住宅を適当な場所に確保し、そこに夫婦も移り住むと仮定します。

近い将来、母の介護が必要になるかもしれません。在宅介護では妻の負担が重くなり、楽しみの旅行にもいけなくなる可能性があります。そこで5年後から仮に6年程度、年120万円ほどの介護費用を見積もります。必要なときにヘルパーに来てもらえれば、介護する側の精神的・肉体的負担は大きく軽減されます。

このような想定なら、東京の自宅の売却代金のおかげで、かなりのゆとりが生じます（表参照）。旅行の回数を減らさなくても、平均運用利回り4%なら夫が84歳の時点で1600万円程度が残ります。

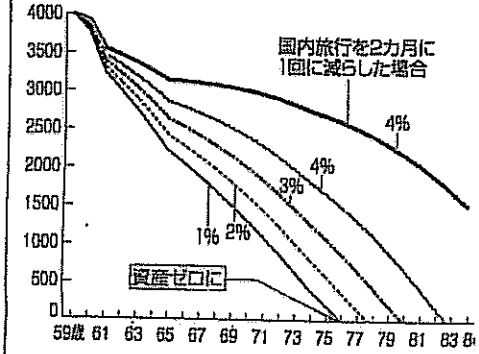
国内旅行を年6回まで減らせば、2%の運用でも800万円、3%なら2千万円残ります。当然利回り2%より4%の方が運用のリスクが増えることを勘案して、旅行の計画と目標利回りを設定しましょう。

もちろん、山形と東京の自宅がいくらで売却できるか、母の保有する金融資産額、相続税がかかるかどうかなど、さまざまな条件によって取り得る選択肢は違ってきます。

最も重要なのは、妻と話し合い、きちんと同意を得ること。母、夫、妻それぞれが覚悟を決めたうえで、具体的にいろいろ試算してじっくり検討すべきです。

FPアソシエイツ&コンサルティング
ファイナンシャルプランナー　福田　啓太

■運用利回り別の金融資産残高の推移



■自宅の売却費と母の介護費を見積もった場合、金融資産残高は……

(万円)

運用利回り	年間の国内旅行	夫70歳	夫84歳
2%[0%]	11回	1642	-1874
	6回	2189	-365
3%[1%]	11回	2005	-1274
	6回	2579	437
4%[2%]	11回	2411	-419
	6回	3015	1529

夫70歳 母91歳	夫84歳
2543	-686
3090	823
3042	295
3617	2007
3598	1637
4202	3585

(インフレ率は2%を想定。[ ]内は、インフレ率を加味した実質利回り)

参考情報
FPアソシエイツ&コンサルティング
(http://www.fp-ac.co.jp)

(出所)朝日新聞 be Saturday　H21年5月16日
(無断転載を禁止します)